



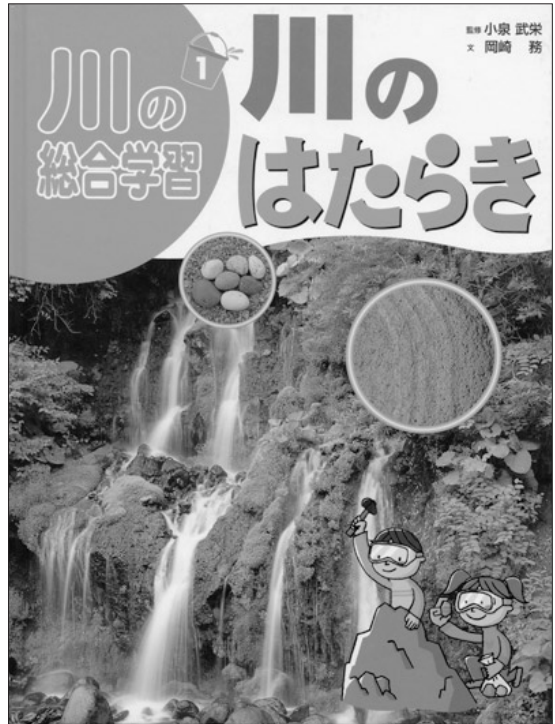
「川の総合学習(1)川のはたらき」

岡崎 務 著 小泉武栄監修
ポプラ社刊
2004.4発行
48p. 定価2,800円(税別)

現在、小中高等学校では、既存の教科の枠にとらわれずに横断的にものごとについて学ぶ総合的な学習の時間が設けられています。そのテーマとして「川」は各地の学校で取り上げられているようです。川について学ぼうとした場合、水質、地形、生物、災害、産業、歴史など切り口は様々で、それぞれの分野で学問的な蓄積があります。教師がそれらを俯瞰し、教材化することは容易ではありません。特に小学生などの低年齢層であれば、きちんとした教材、資料を使う必要があるでしょう。本書は、そのような要求に応えることのできる、川の地形・地質について平易に書かれた本です。

この本では、最初に、東京武蔵野台地の都市河川の様子について書かれています。都会に住む小学生にとっては、自然河川はそう簡単に見ることができないものです。そこで、身近な三面張りの小河川の様子から、上流に思いを巡らせるように導入部が書かれています。それに続いて、最上流部の湧水地点から海に注ぐまでの川の様子を、日本各地の川の写真を使いながら解説しています。地形の発達過程については、イラストで描かれており、読者の理解を助けます。最後の「川が掘り当てた大地の手紙」という章で、地層、岩石について、その外見と成因・分類について書かれています。コラムとして、流量の調査方法や関東ローム層の椀がけの方法などが書かれていて、自分で何かしてみようと思ったときに必要となる情報が盛り込まれています。写真、イラスト、解説文の割合がちょうどよく、地形や地質をイメージしながら本を読み進めることができます。この本を読めば、子供はきっと地形や地質に興味を持つようになるでしょう。教育現場でこういった本が活用されれば、日本の自然環境に対して正しい認識を持った人が増えることになると思います。子供向けの本として書かれていますが、川の地形をちゃんと見たことのない大人にとっても、川の自然を理解するためのよい入門書になるでしょう。

なお、今後、改訂がなされるのであれば、以下の点を望みたいと思います。1) 川の働き(侵食、運搬、堆積作用)によって地形が変化していくダイナミズムが描かれると、もっとよいものになると思います。たと



えば、堆積作用は「川の流れが山からはなれて平野部になると、土地の傾きがさらにゆるやかになり、堆積作用が進みます。」と書かれていますが、これでは、動的なイメージを感じ取ることができません。2) 岩石の写真がいくつか示されていますが、スケールがありません。地形図には縮尺率が示してありますので、同じように岩石の写真についても倍率を示すとよいでしょう。3) 表紙に使われている砂岩の写真には、礫表面の酸化鉄による縞模様が見えます。一方、本文中には、砂岩には「大きさのちがう砂つぶの堆積したあとが、しまよになっている」と書かれています。この写真と解説の組み合わせでは誤解を招くでしょう。4) この本の中では「浸食」という字が用いられています。学校の教科書、地形学の分野では「侵食」の字を用います。書評子は「浸食」という字は水の働きばかりをイメージさせる誤用であると考えます。小学生が使う本ですので、今後、訂正していただきたいと思います。

地球のことを学ぶときに、川の地形や河原の石は最良の素材となります。この本を読んで、子供向けの、川の地形や岩石・地層についての入門書の必要性を強く感じました。今後、地球科学の専門家によって類書が数多く執筆されることを期待します。

(地質標本館 目代邦康)